



# WORKING TOGETHER

- 働く人の LGBT 入門ハンドブック



Lesbian  
Gay  
Bisexual  
Transgender

## 「性的少数者働きやすい職場を」自治労

性同一性障害など性的マイノリティー(少数者)が働きやすい職場をつくらうと、自治労が取り組みを始めた。組合への相談が増えているため、手引書の作成や組合員の研修を進めている。「少数者が排除されない職場は、すべての人が働きやすい場所になるはず」として、8月につく

る新たな運動方針でも対応の強化をうたう予定だ。性的少数者とされる人は100人のうち数人程度ともいわれているが、差別を恐れて打ち明けられない人が多い。同僚のからかいや好奇の目がつらい▽違う性のトイレを使いたい▽同性パートナーの看護や介護で仕事を休みたいといった職場での悩みの相談が増えており、「組合員も知識

を身につけないと適切に対応できない」(中島圭子・健康福祉局長)と考えたという。5月には国際公務労連東京事務所など共同で「ワーキング・トゥギャザー」と題した手引書を8千部作成、全国の単組に配った。労組の支援を受け、違う性別で働くようになった性同一性障害の人の実例や各国の取り組みを紹介するほか、異性愛者以外にも念頭に置いたハラスメント防止策作りなどを求めている。

レズビアンであると公表している元大阪府議の尾辻かな子さんは、2日に開かれた自治労主催の研修会で「言えないだけで、あなたの周りにも当事者がいることを知ってほしい」と話した。冊子は無料で配布する(送料は着払い)。住所、氏名、電話番号、必要部数を明記し、冊子の編集委員会(workingtogether\_lgbt@yahoo.co.jp)にメールで問い合わせを。(林恒樹)